

日本語のノダに類する文末談話標識の通言語的研究：
「思考プロセス」の観点からのアプローチ
(平成 25 年度第三回研究会)

日時： 平成 26 年 1 月 25 日 (土曜日) (午前 9 時より午後 6 時半)
26 日 (日曜日) (午前 9 時より午後 3 時半)

場所： AA 研 302 号室

報告者名： 角田三枝 (AA 研共同研究員 立正大学非常勤講師)

2013 年度 第 3 回 研究会報告

参加者 (7 名)： 梅谷博之、大塚行誠、児倉徳和、千田俊太郎、角田太作、
星泉、角田三枝

<研究会の内容>

調査報告① 児倉徳和

「シベ語の調査結果」

シベ語におけるノダに類する文末談話標識について、共通の調査票による調査の結果を述べた。

調査報告② 星泉

「カム・チベット語の調査結果」

カム・チベット語におけるノダに類する文末談話標識について、共通の調査票による調査の結果を述べた。

調査報告③ 千田俊太郎

「朝鮮語の調査結果」

朝鮮語におけるノダに類する文末談話標識について、共通の調査票による調査の結果を述べた。

「ノダの思考プロセス」との関連 角田三枝

オリジナルのイラスト調査票を用いて、それぞれの言語におけるノダに類する文末談話標識の様々な用法を調査しつつある。これまでの個々の言語の調査結果から、それらが「ノダの思考プロセス」とどのような関係にあ

るかを角田三枝が分析し、現時点での結果を述べた。

また、今後の研究の方向性について検討し、全員でディスカッションを行った。

コンピュータ上のデータの管理（児倉徳和）

各言語におけるノダ文に相当する文末標識の用法をまとめ、また調査結果を整理しそれをメンバー間で共有するために、児倉徳和が中心になってエバーノート、グーグルスプレッドシートなどの準備を行っている。その使用方法について新たな提案を行い、今後の方針を検討した。

<今回の研究会の成果>

これまでに準備してきた調査票を使って、それぞれの言語について、調査を行っている。今回は3つの言語について調査報告を行った。これで各言語についての第1回目の調査報告が済んだ。

これまでの調査結果と今回の調査結果から、おおまかに「ノダの思考プロセス」との関係がより具体的に表れてきた。また、それぞれの言語において、ノダに類する文末談話標識の特徴的な表れ方、特有の用法があることもわかってきた。今後、日本語のノダの用法と各言語のノダに類する文末談話標識の用法の違いを詳しく調査するために、これから調査結果をより綿密に検討することになった。

実際にイラスト入りの調査票を用いた結果、かなり細かい点に関してもさまざまな新発見がある。これから、個々の言語の特徴を加味しながらより精密な研究を行うことにより、良い成果が期待できそうである。

コンピュータ上での調査結果の整理、共有のための準備も進展している。